



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2011. 02. 25

第 55 号

今年度の聖句

目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。

何事も愛を持って行いなさい。

コリントの信徒への手紙Ⅰ 16章 13-14節

同じ釜の飯

大学 宗教部長 澤村雅史

同窓会東京支部の皆様、こんにちは！大学宗教部長の澤村です。広島女学院大学には2009年4月に着任し、2010年4月より宗教部長をさせていただいております（現在ではボランティアセンター長も兼務）。その前は福岡の小さな教会で牧師を8年間務めました。牧師になる前は7年間、重工メーカーに勤務し、東京（浜松町・貿易センタービル）にも2年間おりました。その頃、北海道出身の田舎者の私が驚いたのは、ランチの行列です。昼休みに人が集中するので、有名店や特別に美味しい店でなくても行列ができるのですね。さらに驚いたのは、中華料理店の丸い大テーブルでの相席です。夜は宴会で賑やかな円卓に、昼は見知らぬ同士が座って、やや気まずそうにそそくさと個食＝孤食を済ませる様子は、大都会ならではの光景に思えたものです。

「同じ釜の飯」という言葉があります。英語でも company（仲間）の語源は一緒にパンを食べるもの同士というところにあるようです。「食べる」という人間にとって必須の、根源的な営みをともにすることによって結びついた者の絆には深いものがあります。しかし、前述の光景のように、ただ一緒に食べればよいというものでもなさそうです。一つのもの、一つの出来事をともに分かち合うという経験が、私たちを「仲間」にするのです。しばしばキリスト教主義学校の同窓生が集まる場で耳にするのは「在学中は礼拝なんて面倒くさいと思うだけだったけれど、卒業して賛美歌や聖書や祈りのひとときを無性に懐かしく思うようになった」ということです。皆さんはいかがですか？このように思うのは、きっと学校礼拝（チャペル）の時間が、私たちを一つに結びつ



ける大切な思い出となっているからでしょう。

聖書を生み出した古代イスラエル民族は、強大なバビロン帝国によって国を滅ぼされ、強制移住させられ、バビロンふうの名前・バビロンの言葉を用いることを余儀なくさせられます。母語と名前と故郷と地縁を一気に奪われた人々は、自分は何者かという問い（アイデンティティ・クライシス）に直面させられます。そこで彼らは、ともに集まって、母語であるヘブライ語で、「神のことばを聴く」ことによって、自分が何者であるかを確かめようとしていました。そこで語られ、そして聴かれたことばこそ私たちが手にしている聖書の原形です。礼拝やチャペルの時間で必ず聖書のことばが読まれることは、彼らのこのような存在をかけた営みに由来しています。集まってひとつのことばを聴くこと、時間と空間とを共有することの積み重ねこそが、わたしたちを「ひとつ」にするのです。そのことを、聖書はその内容だけではなく成立の歴史によって私たちに教えています。

2010 年度 東京支部 会計報告

2010 年 1 月 1 日～2010 年 12 月 31 日

収 入			支 出		
費 目	金 額	摘 要	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	475,760		支部ニュース費	479,585	印刷代、封筒代、送料他
支部会費	626,000		役員会費	96,970	会場費、交通費実費 他
受取利息	191		支部活動費	61,672	クリスマス会 他
			通信事務費	59,904	通信費 他
			関東ブロック活動費	29,099	夏雲の集い分担金
			小 計	727,230	
			次年度繰越金	374,721	
合 計	1,101,951		合 計	1,101,951	

監査報告

上記事項について監査した結果、相違ないことを認めます

2010 年 12 月 31 日

会計監査

中丸 秀子



2011 年度 東京支部役員

東京支部は一月から新年度に切り替わりました。昨年度まで会計監査として長い間ご奉仕していただいた中丸秀子さんが退任されました。今年度から佐藤美代子さんが加わって下さいました。ご一緒に活動していただける方、歓迎です！ご協力をよろしくお願いいたします。



支部長・編集委員	坂下 恵 (杉田) 文英 1
副支部長・会 計	鈴木 章子 (岩田) 高 19、文英 1
副支部長	瀧口 京子 (白井) 高 23、文英 5
書 記	藤居阿紀子 (森) 高 25
宗教委員	藤井 幸子 (財満) 高 14
役 員	西山 朋子 (佐々木) 高 22、文英 4
"	佐藤美代子 (池田) 高 22、文日 4
"	吉田 綾子 (藤原) 短大 7
"	田中富美子 (松田) 文日 1
会計監査	高井 浩子 (高橋) 高 14、大英 14



[illegible]

昨年度の会費納入
ありがとうございました！

東京支部の年度は1月から12月までです。

支部の活動は皆様からの会費で成り立っています。

支部ニュース51号、52号でもお知らせしましたが、
会費の自動振替は、条件が整わないため行っておりません。

封筒の宛名シールに「*」印が付いている方は、
今年度の会費を納入済みです。
手違いで振替用紙が入っていた場合は、ご容赦ください。



東京支部クリスマス会

昨年12月10日（金）に東京支部のクリスマス会を行いました。今回は銀座教会の正午礼拝に参加してマタイによる福音書10章24-33節について教会員の保々和宏兄による奨励をいただき、銀座教会の雰囲気に触れることができました。その後茶話会に移り、中島秀子さん（田中／高17）のピアノ伴奏で、懐かしい讃美歌、校歌、広島女学院同窓生の歌と、たっぷり歌いました。マイクを回しての楽しい自己紹介では、先輩方のご活躍中の頼もしいお話に元気を頂きました。

高女52回の先輩から高校33、46、47回生と幅広い年代の33名の参加をいただき、初めての方や久しぶりの方、そして3歳の坊やのお顔も見られて、和やかな嬉しい集いになりました。

お帰りには、役員手作りのクマさんのクッキー、寄付していただいたカードやミニタオルなどのおみやげもお持ち帰り頂きました。



「広島女学院同窓生の歌—どんなに時が流れても」は、ゲーンズ先生のことを歌ったものです。同窓会のホームページで聴くことができます。皆様からの献金30,200円は日本基督教団 隠退教職ホーム「にじのいえ信愛荘」へ東京支部の名で献金させていただいたことをご報告いたします。

坂下 恵（杉田／文英1）



「花の咲く鉢」

白井京子（現・瀧口） 高23、文英5

■父が亡くなって、今年で三十年になる。父が持っていた原爆手帳を失ってしまった。実は東京都では、定期健診が年に二回、無料になるなど、被爆二世に対する援護があることを知り、昨春秋、その申し込み手続きをすることにした。そのためには、自分が被爆二世であることを証明、つまり親の被爆を証明しなくてはならない。広島市役所に照会し、住民票や戸籍謄本を送って手続きを進めたところ、父が原爆手帳を取得する際に書いた被爆申請書が送られてきたのだ。被爆時、旧制広島高等学校の生徒だったので、そのころの友人らしい二人の名前が証人として書かれていた。いろいろ父には聞きたいことがあったけど、もうこの世にはいないという寂しさが、改めて申請書の、まだ若い父の文字を見て、じわじわと思いきこされた。

父の字の被爆申請初時雨 白井薔薇

寒昴クマと呼ばれし父であり //

■フリーアナウンサーという仕事は、毎日、変化に富んでいる。事務所に所属しているが、給料はない。今年で三十三年、よくやってきたなと思う。どんなに変化に富んでいるかというと、北島三郎の番組、クラシックから演歌までコンサート司会、週末は披露宴の司会、かつては、朝のワイドショーでカレーのコマーシャル、お天気キャスター、そして美しい話し方

の講演と、浅くていいから広い知識が必要。先日は、全国高等学校吹奏楽コンクールの司会をした。二日間にわたって六十組の高校が登場。学校を紹介して舞台の袖に戻ると、高校生の熱演を聞きながら、少しの時間に俳句を作った。

姿見のポニーテールに冬灯 白井薔薇

舞台へとマスクをはずし出てゆける //

照明の中行く人や冬薔薇 //

「新世界」轟かせたる冬構え //

冬浅しわが名太字に楽屋札 //



■悲しいことがあった。その直後に北島さんと仕事をした。「京子、そんなときには家の中や外、いたるところに、小さくてもいいから、花が咲いてる鉢を置くようにするんだよ、そうしていると気分が楽しくなってくるよ。」と言ってもらったのが心にしまった。

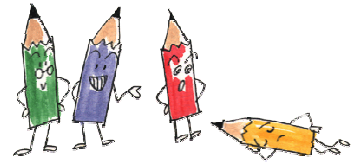
皆様からの投句をお待ちしています。



俳号

白井薔薇 しらいそうび

テレビ東京・土曜日「サブちゃん」と歌仲間」に出演中



血流の音色と 音楽の音色を聴く日々

長崎 綾子

私は、浜松町のオフィスビルの小さな一室で内科医として働いております。

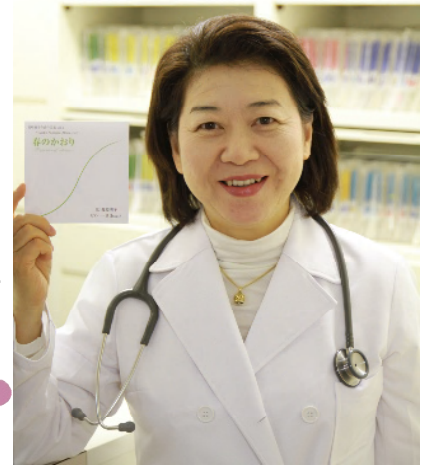
歌うことが大好きで、中学、高校時代は音楽部の練習に加えて、時間があれば音楽室脇に並んだピアノのレッスン室で音楽好きの仲間と連弾したり歌ったり、音楽で遊んで過ごしました。勉強は大の苦手でしたが、高2の終わり頃、担任の渡辺和子先生の一言で、医学の勉強をすることに決めました。先生は、私は英文科に進むものと思われていたようで、希望進路を心理学科と書いたのをご覧になり、驚いた先生に私は突然呼び出されました。

「人を知る勉強をしたいんです。」と私。「人を知る勉強には心理と哲学と医学があるんよ。」と渡辺先生。単純な私は、すぐに「医学」を選択すると決断。それからが大変。苦手な勉強に苦しみました。

浪人中、渡辺先生から頂いた年賀状に、「能力とは、続けることを言う」とあり、この言葉は私の生涯の杖となっています。

心療内科医を志して医学部に入学し、学生時代は、九大や東大で開催された心療内科講座に勉強に行きましたが、卒業後は、救急医療や一般の内科を主に勉強しました。現在は、一般内科医として多忙な毎日で、心療内科の必要な方には専門医を紹介しています。内科全般の窓口のような仕事ですが、力を入れていることの一つは、『血管のアンチエイジング』。サラサラの血液がほどよい太さの血管を流れてくれるお陰で、脳や五臓六腑がきちんと働くことができるわけですから、血流を維持することは大切です。私は、コレステロールが高い方などには、聴診器で首の血管の音を聴くことにしています。血管が硬かったり細かったりすると血流が乱れるせいか独特の音がするのです。異常を感じると専門家に超音波で確認してもらいます。「聴診器一本でよくわかるものだ」と感心されますが、今のところ95%位の確率です。これも音楽を聴いてきたお陰かもしれません。

この診察法に力を入れるようになったのは、血管の治療が進んできて、脳梗塞、心筋梗塞の予防がで



きるようになってきたからです。問題がみつかり、血管と血液をきれいにする治療を開始します。血管の病気の早期発見、早期治療です。(心配な方は、循環器科を受診して頸動脈エコー検査をお受けになることをお勧めします。)

さて、私は、勉強と仕事に追われて、大好きだった音楽に長い間封印をしていましたが、十年前に脊椎炎を患って入院してからは、残業を減らし、余暇をたっぷりとることにしました。

七年前、40年ぶりにピアノを習い始めたら曲が浮かぶようになり、作曲も始め、昨秋、初めてのCDを作りました。

『長崎綾子作曲作品集～春のかおり～』

[唄] 渡辺明子、[ピアノ] 一世 (Issei)

『春の香り』(一世 (Issei))、『はる』(谷川俊太郎)、『風の子供』(竹久夢二)などの詩に曲を付けました。メロディは賛美歌や童謡・唱歌のようなものばかり、それも女声合唱団や少年少女合唱団で歌うイメージが浮かんできます。広島女学院で賛美歌や合唱曲を歌ってきたことが関係しているのかも知れません。この作曲集には女学院の魂が入っているのではないかと思います。いつか仲間達と一緒に歌うことができれば、また女学院音楽部の現役の皆さんに歌って頂けたら嬉しいです。聴いて下さる方がいらっしゃいましたら住所、電話、卒業年を明記の上、ながさき内科医院にFAX (03-3435-5707) 下さい。

高校45～47回生 同窓会

小林 悦子(土生／高46)

2010年10月23日、新丸の内ビル「SALT」に高校46回生を中心に14名が集まりました。卒業して15年以上経ちましたが、再会してみれば「あんたあ太ったんじゃないん?」「ほうよ、過去最高を記録しとるわいね。」などと青春時代に戻って遠慮のない会話。近況報告や昔話に花を咲かせました。オシャレなお店で広島弁丸出しで話す私たちの姿をご想像ください。皆、女学院が大好きで女学院で学んだことを誇りに思っている大切な仲間です!

同窓会開催に寄せて片山美代子先生(世界史)から素敵なメッセージをいただきました。女学院スピリットとして皆さまとも感動を分かち合いたく、ここにご紹介させていただきます。

みなさんは広島女学院高校を卒業して十六、七年が経ったのですね。三十代の半ばでしょうか。「若いなあ」と羨ましい限りです。たったこの前まで私もそんな年齢だったのに、あっという間に六十代の後半になっていました。《時》はまたたくまに過ぎ去って行きます。

子育てや親の介護、仕事も多忙であるなど、いろんな状況に置かれていて、とても自分の時間など持てないかもしれません。でも一度しかない人生だから、《氷山の下に潜む才能》を信じて、一日二十四時間のうちのどこかを「自分専用の時間」として使ってくださいね。

子育ても仕事も大切、自分の才能を磨くことも大切なことです。自分のやりたいことをこつこつと継続、つまり「助走」しておく、ゆとりができた段階で自分の世界にさつと入って行け、自分の《花》をそれなりに美しく咲かせることができるのだと思います。今からでも十分間に合います。私も自分の才能はまだ《氷山の一角》しか水面に出ていないと思っていますから、日々の努力を怠らず、自分として最大限がんばりたいと思っています。大阪弁で言うなら、「ワイはやつたるで」の気持で、お互いがんばりましょう!

片山美代子(葉山 弥世)



関東ブロック主催 2011 夏雲の集い

～ 原爆死没者追悼礼拝 ～

2011 年 7 月 4 日 (月) 13:30～

日本基督教団 王子教会

東京都北区王子本町 1 丁目 19-2

JR 京浜東北線 王子駅北口 徒歩 10 分 (地図参照)

礼拝・説教：王子教会 大久保正禎牧師

関東ブロックでは、母校での 350 名の犠牲を追悼し平和に向き合う集会として、故山本知子先生の提唱による「夏雲の集い」を 1988 年から毎年開催してきました。

今年は、担当の清水埼玉支部長の提案により、高田三郎作曲「アッシジの聖フランシスコによる 平和の祈り」を皆さんで一緒に歌うことにしています。

昨年のクリスマス会のプログラムに楽譜の縮小コピーを入れましたが、6 月中に、王子教会で 2 回ほど練習をする予定です。練習に参加ご希望の方には日時が決まり次第お知らせしますので、坂下 (TEL/FAX 03-5386-0740) までご連絡下さい。

今年度の主な活動予定

- ・「東京支部ニュース」発行 (3 回)
- ・関東ブロック主催
7/4 「夏雲の集い」
10/29 「広島女学院創立 125 周年を祝う会」
- ・クリスマス会 (銀座教会)
- ・同期会の開催推進
(お手伝いしますのでご相談下さい)
- ・同窓生の情報を同窓会ホームページに提供
(活動情報をお寄せ下さい)



王子教会へのアクセス



関東ブロック主催 広島女学院創立 125 周年を祝う会

2011 年 10 月 29 日 (土)

品川プリンスホテル (予定)

恩師をご招待して懇親会形式で行います。

次号の支部ニュースで詳しくご案内します。同期生と誘い合わせてご参加ください。

～～～ 実行委員募集中 ～～～